

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

子どもとその家庭に関する臨床的問題の実際、および現代の保育・教育現場における諸問題を理解する。多様な保護者・様々な困難を抱える子どもとのつながり方・理解の仕方の原則を理解し、内外の資源と連携しながら支援するための知識と技能を習得する。公立学校での指導助言の実務経験を活かし、事例やロールプレイを用いながら発達臨床心理学の技法や支援方法について学ぶ。授業は基本的に講義形式で進めるが、積極的に集団討議や演習も取り入れる。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、評価方法などについて）、ライフサイクルと心理臨床
第 2 回	発達臨床心理学の対象の理解 1（発達障害）
第 3 回	発達臨床心理学の対象の理解 2（愛着障害、情緒障害）
第 4 回	発達臨床心理学の対象の理解 3（児童期と青年期の問題行動）
第 5 回	保育における問題行動の理解とアセスメント
第 6 回	発達臨床心理学の技法 1（遊戯療法）
第 7 回	発達臨床心理学の技法 2（来談者中心療法 1）
第 8 回	発達臨床心理学の技法 3（来談者中心療法 2）
第 9 回	発達臨床心理学の技法 4（行動療法 1）
第 10 回	発達臨床心理学の技法 5（行動療法 2）
第 11 回	発達臨床心理学の技法 6（認知療法 1）
第 12 回	発達臨床心理学の技法 7（認知療法 2）
第 13 回	保育の場での幼児理解と発達支援
第 14 回	保育の場での保護者理解と相談援助
第 15 回	子育て支援と保育カンファランス
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・乳幼児の発達特徴を心理学的に説明できる。
- ・発達障害の概念の理解と各内容の特徴について理解している。
- ・子どもの問題行動について、その種類、主な原因と援助を発達臨床心理学的に説明できる。
- ・子どもと保護者への共感的理解の意義とプロセスを知識として身につける。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、コメントを書くなどのワークを毎回課すので、積極的に授業に参加すること。出欠は厳密に記録にとるので、そのつもりで受講すること。

予習・復習

予習として、予め配付する資料に目を通しておくこと。
また、資料と授業の内容を併せて復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）と期末試験（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況と、授業態度なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。
授業内で適宜、参考文献を紹介する。